

2021/10/25-2

(オマケの英語教室 lighter)

Lighter (ライター) 書庫版



たばこに火を付けるあのライターの事です。

日本語でライターと書くと上述の様にたばこに火を付けるライターを直ぐに思い浮かべますが、英語で lighter と書いてみると何かちょっと違和感を覚えてしまいました。

それで何故違和感を覚えたのかを考えてみたのですが、暫くして思い当たったのが語幹の Light(ライト)で連想すると「火」よりも電気の「光」を想像してしまうことに気づきました。

たばこに火を付けるのに、例えば懐中電灯や電気スタンドを向けたりかざしたりしても当然火は付きませんから、lighter という単語と語幹の light からの連想される物の差が違和感の正体だった様です。

話は変わりますが、英語で「灯台」のことを「lightning house」と言います。

日本語で灯台の「灯」の字、即ち「ともしび」という字には火編が着きます。此処での灯台は電気ではなく火の光を表していそうです。

では外国の灯台は電気なのか？それとも火の光なのか？

それで灯台について少し想いを巡らせてみたのですが、思い浮かんだのが

「そういえば昔、未だ電気のなかった頃には当然油ランプや蠟燭(ろうそく)、まあせいぜいガス灯くらいのものであったろうから矢張り lightning house の light (ライト) は火の光だったのだろうな」

と推測致しました。

それにしても電気にせよ火の光にせよもし灯台がなかったら、どっちが海方向でどっちが陸方向なのか分からず恐怖と不安で海での航行は大変心細かったろうと思います。

今でこそレーダーや GPS システムが在り、別に真っ暗闇の中でも灯台の光を当てにしせずとも船の安全な航行は可能になっておりますが、それらのない時代の灯台の火の光の暖かさ、ありがたさは殊更(ことさら)格別な物だった事でしょう。

ここで又々話は変わりますが、例えば

「あなたの目線が私の心に火を付けた」というのは

Your eye beams lightened my heart.

とでも言い得るのでしょうか？

でもこれだと

「あなたの目線が私の心を照らした」

になりそうなので

上記の訳文には

Your eye beams got my heart burning.

とか

Your eye beams got my heart falling into love.

の方が照明感より炎上感（燃え上がり感）が感じられていいような気がします、どうなん
でしょう？